

ダイキン「第一回 現代人の空気感調査」結果発表
一万人が選んだ空気の三大理想郷は、
「富良野」「屋久島」「日本アルプス」
 ～人が一日約20kgも口にしながら見えなかった‘空気’が見えてきた～

ダイキン工業株式会社（取締役社長：井上礼之）は、このほど、全国約1万人を対象として、人が1日に約20kgも口にしながらあまり意識されず、なかなか目に見えなかった“空気”についてもっと多くの方々に関心を持っていただくために、「色、音、味、香り、温・湿度」の五感やイメージなどを聞いた、「第一回 現代人の空気感調査」を実施いたしました。

「第一回 現代人の空気感調査」では、以下のような“空気”の姿が見えてきました。

◀ 「第一回 現代人の空気感調査」の主な調査結果 ▶

I. 空気についてどの程度意識しているのか

- 1) 空気を特に意識するのは「自宅」で「朝起きた時」。季節では「花粉のシーズン」と、初春から初夏にかけて意識することが多い。年配者は「新緑・若葉」の頃に、女性は「花粉のシーズン」や「梅雨の時期」に、若い男性は「海水浴のシーズン」に特に空気を意識する。

II. 心地よい空気とはどんな空気か

- 1) 最も心地よい空気が流れているとイメージする“空気の三大理想郷”は、国内では「富良野」「屋久島」「日本アルプス」。海外では「アルプス」「ロッキー山脈」「エーゲ海」。
- 2) 心地よい空気を五感で表すと、「無色透明か水色」で、「森林の香り」がして、「甘い味」の、「サラサラ」という音がする「温度 18.2℃・湿度 42.1%」の空気。
- 3) 湿度への理解はまだまだ。温度と湿度の観点から見ると、1万人が理想と考える空気はウィルスの発生を引き起こす「低温乾燥」か、カビ・ダニの温床となりやすい「高温多湿」の傾向。

III. 自分の町の空気はどんな空気だと感じるか

- 1) 日本の将来が見えないから？自分の町の空気感（印象）は、若い世代ほど否定的な印象をもつ。
- 2) 地域別にみると、東京で、自分の町の空気を不快と感じる人が2人に1人。大阪では3人に1人、北海道ではわずか5人に1人であり、空気環境の面で東京在住者の潜在的な不満が浮き彫りとなった。
- 3) 自分の町の空気について最もネガティブ印象をもっていた東京でも、心地よい空気だと思う場所はある？東京の空気のキレイな場所ベスト3は「奥多摩」「皇居」「高尾・八王子」。

【調査目的】

人は、毎日約 20kg もの空気を口にしています。これは食品・飲料水などの 1 日の摂取量の約 10 倍にもなります。このように人の生活に欠かせない空気。しかし現在、空気をめぐ
る環境は大きく変化しています。日本の住宅は、かつての襖や障子を多用した‘風通しのよい家
屋’から、‘高气密高断熱住宅’に代表される、気密性や断熱性の高い住宅へ変わり快適性の観点
では大きく向上しました。反面、密閉度が高まったことによるシックハウス症候群など室内空気の
汚染問題、高温高湿の空気環境によるダニ、カビの問題など今までにない問題が生まれ、空気環
境の観点からは、新たな取り組みが必要となってきました。

ダイキン工業は、51 年前に日本で初めてパッケージエアコンを製造して以来、“空気”にこだわ
りまた空調の技術を進化させてきた空調のトップメーカーとして、“空気”についてより多くの
方々に関心をもっていただくために「現代人の空気感調査」を実施いたしました。

今回の調査では、目に見えず、言葉では表現することの難しい空気について、「色、音、味、香
り、温・湿度」の五感やイメージなどで調査をしております。ダイキン工業は「空気」をもっと
“見えるものに”そしてもっと“心地よい空気”を追求していくことで、人々の健康で快適な生
活を支援して参ります。

なお本調査については、今後も定期的の実施し、空気についてさまざまな角度から興味深い情報を
提供し、空気に対する意識を高めていただきたいと考えています。

【調査人数】

Web 回答者 26,647 名を性・年齢別に整理し、分析目標件数 10,000 名を等間隔抽出法にて
ランダムに抽出

【調査方法】

web 調査(インターネット、i モード)による実査
(当社ホームページ上の「アンケートコーナー」による調査)

【調査内容】

I. “空気”についてどの程度意識しているのか

- 1) 1 日の中で“空気”を特に意識するのはどんな時か
- 2) “空気”を特に意識するのはどんな場所か
- 3) 1 年の中で“空気”を特に意識するのはどんな季節か

II. 心地よい空気とはどんな空気か

- 1) 心地よい空気の流れている場所は
- 2) 心地よい空気を五感で表すと

III. 自分の町の空気はどんな空気だと感じるか。

- 1) 自分の町の空気に対してどんな印象を持っているか。
- 2) 東京の空気についてどんな印象を持っているか。
- 3) 東京で最も空気のきれいな場所は。

【調査期間】

2002 年 3 月 10 日～3 月 30 日

I. 空気についてどの程度意識しているのか

I-1) 空気を特に意識するのは「自宅」で「朝起きた時」。季節では「花粉のシーズン」。

I-1) 空気を特に意識するのは・・・

- 1日の中では、「朝起きた時」(36.3%)
- 場所は、「自宅」(26.3%)や「山・高原・林間」(25.5%)
- 季節では、「花粉のシーズン」(24.8%)や「季節の変わり目」(17.0%)
- 空気を最も意識している地域は「東京」(20.8%)

“空気”を特に意識する時はどんな時かを聞いたところ、1日の中では、「朝起きた時」(36.3%)と回答した人が最も多く、次に「通勤や通学時」(20.7%)の順となり、以下「帰宅した時」(12.2%)「仕事(勉強)をしている時」(10.5%)と続きますが、他はすべて1割以下の回答となりました。

性別・世代別にみると、「朝起きた時」は、男女とも年齢が高い人ほど回答が多くなっており、男性・50代以上で50.6%、女性・50代以上で50.7%と、男女ともにほぼ半数の人が「朝起きた時」と回答しました。

場所では、「自宅」(26.3%)と回答した人が最も多く、次に「山・高原・林間」(25.5%)の順となり、以下、「都会」(15.4%)が続きますが、他はいずれも1割以下の回答となりました。

性別・年代別では、「都会」は10・20代の若者の回答が多く、「自宅」は女性の回答が比較的多くなりました。

季節の中では、花粉症で困っている人の多い「花粉のシーズン(2月)」(24.8%)と回答した人が最も多く、次に「新緑の頃(5月)」(15.1%)「若葉の頃(4月)」(14.6%)の順で、初春から初夏にかけての季節に空気を意識している結果となりました。また、「季節の変わり目」との回答も2割近く(17.0%)みられました。

性別・世代別では、「若葉の頃」や「新緑の頃」は50代以上の年輩者で多く、「梅雨どき」「季節の変わり目」は女性で比較的多くなっています。また、「海水浴シーズン」は10・20代の男性の回答が比較的多くなりました。

地域別では「東京」に住んでいる人(20.8%)が最も空気を意識している結果となり、逆に、日頃、空気をあまり意識していない人が多いのは「四国」となりました。これは、「Ⅲ. 自分の町の空気をどう感じるか」で東京が“自分の町の空気”について最も否定的な印象を持っていたことから、東京に住む人が高い意識をもつのは、東京が他の地域に比べ環境が悪く、空気を意識せざるをえない状況にあることが原因として考えられます。

- ◆ 空気を特に意識するのは「朝起きた時」。特に年齢が高い人ほど多い。季節では初春から初夏にかけてが多く、年配者は新緑・若葉の頃に、
- ◆ 女性は花粉のシーズンや梅雨どきに、若い男性は海水浴シーズンに空気を意識する。
- ◆ 空気を最も意識している地域は東京。他の地域に比べ環境が悪く、現在の空気に対して満足していないのが原因と思われる。

Ⅱ. 心地よい空気とはどんな空気か

Ⅱ-1) 空気の三大理想郷は、国内では「富良野」「屋久島」「日本アルプス」。

Ⅱ-1) 心地よい空気の流れている場所は・・・

- “空気の三大理想郷”は、国内では「富良野」「屋久島」「日本アルプス」。海外では「アルプス」「ロッキー山脈」「エーゲ海」
- 性別に見てみると、国内については、女性は「富良野」、男性は「日本アルプス」がトップ
海外については、女性は「アルプス」「エーゲ海」、男性は「アルプス」「ロッキー山脈」

国内で“心地よい空気”が流れていると思う場所を聞いたところ、「富良野」(23.0%)と回答した人が最も多く、次に「屋久島」(20.5%)、「日本アルプス」(19.5%)の順となり、以下「上高地」(18.9%)「四万十川」(15.1%)、さらに「軽井沢」(11.2%)「摩周湖」(10.4%)が続きました。

性別・世代別にみると、「富良野」は、女性(27.3%)が男性(18.7%)より比較的多く、年齢が低い女性ほど回答が多い傾向が見られました。

また、海外で“心地よい空気”が流れていると思う場所を聞いたところ、「アルプス」(34.9%)と回答する人が最も多く、3人に1人が「アルプス」をあげる結果となり、次に「ロッキー山脈」(17.4%)「エーゲ海」(16.0%)の順となり、以下「モンゴル大草原」(13.3%)、「フィジー諸島」(10.0%)が続きました。

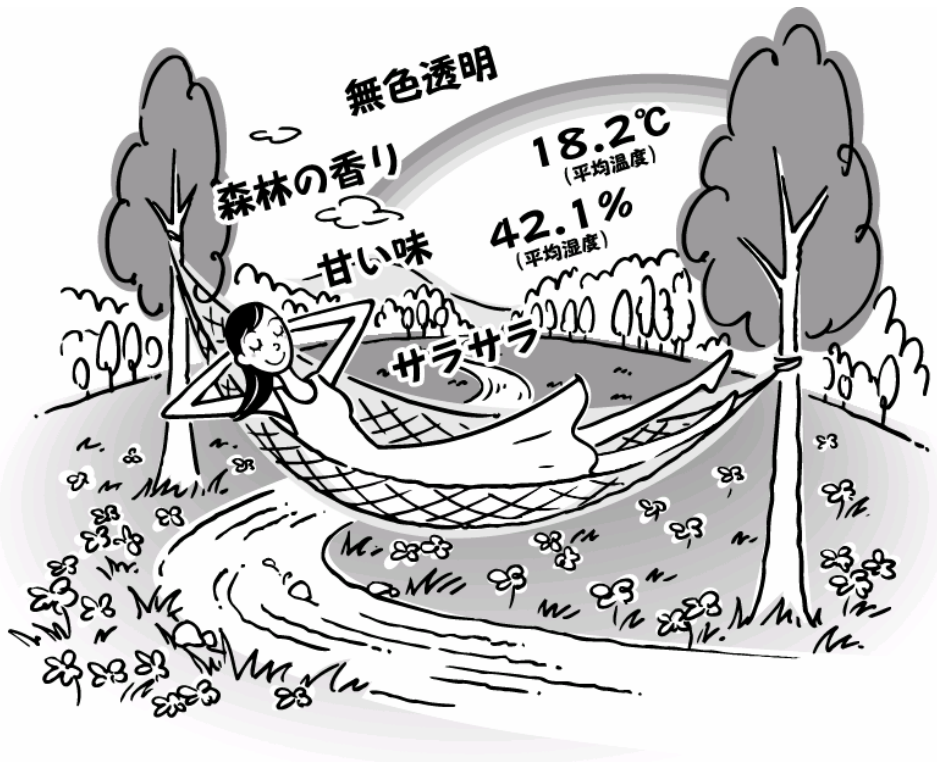


Ⅱ-2) 心地よい空気を五感で表すと、「無色透明か水色」で、「森林の香り」がして、「甘い味」の、「サラサラ、ソヨソヨ」という音がする「温度 18.2℃・湿度 42.1%」の空気。

Ⅱ-2) 心地よい空気を五感で表すと、

● 「無色透明か水色」で、「森林の香り」がして、「甘い味」の、「サラサラ、ソヨソヨ」という音がする「温度 18.2℃・湿度 42.1%」の空気

□色…	1位「無色透明」(33.3%) 2位「水色」(29.8%) 3位「緑色」(14.4%)	□香り…	1位「森林の香り」(48.3%) 2位「高原の香り」(34.3%) 3位「潮風の香り」(4.5%)
□味…	1位「甘い味」(54.0%) 2位「酸っぱい味」(10.7%) 3位「しょっぱい味」(2.2%)	□音…	1位「サラサラ」(1274票) 2位「ソヨソヨ」(985票) 3位「サー」(535票)
□温度…	18.2℃(平均温度)	□湿度…	42.1%(平均湿度)



更に詳細に分析してみると・・・

～「心地よい空気」の詳細分析～

■10代・20代は「水色」、年齢が高くなるにつれ「緑色」と回答

色は、「無色透明」が最も多く、次に「水色」「緑色」と続きました。世代別にみると、「水色」は、年齢が若い人ほど回答する傾向があり、特に10代・20代では「水色」が最も多く（35.4%）、「緑色」は年齢が高くなるほど回答する傾向がありました。これらの色のもつ意味から考えると、「水色」を選ぶ若者は、心地よい空気に対して、「空や海、川」などを連想し、“冷静”“爽やか”“静寂”などのイメージをもつ一方、「緑色」を選ぶ中・高齢者は、心地よい空気に対して、「森、草原」などを連想し、“くつろぎ”“自然”“豊か”などのイメージをもつことが推測されます。

■40代・50代は「森林の香り」、年齢が若い人ほど「高原の香り」と回答

香りは、「森林の香り」が最も多く、次の「高原の香り」とともに殆どの回答となりました。世代別にみると、「森林の香り」は、40代（52.3%）や50代（40.0%）に多く、年齢が若い人ほど「高原の香り」を回答する傾向がありました。また、香りの雰囲気聞いたところ、「爽やかな」が最も多く、“爽やかな森林の香り”をイメージする人が最も多いことが推測されます。

■「甘い味」は男性に多く、年齢が高くなるにつれて「酸っぱい味」と回答

味は、「甘い味」が圧倒的に多く、特に男性（58.0%）は「甘い味」を選び、は、世代別にみると、男女ともに年齢が高くなるにつれて「酸っぱい」を回答する傾向がありました。また、味について強さを聞いたところ「薄い」が最も多く、“少し甘い味”をイメージする人が多いことが推測されます。

■“小川のせせらぎ”や“森林や高原の風”の音をイメージさせる回答が多い

音は、「サラサラ」という“小川のせせらぎ・清流”をイメージさせる音や「ソヨソヨ」「サー」といった“森林や高原の風”をイメージさせる音が多い結果となりました。

II-3) 心地よい温度と湿度の組み合わせは「低温・乾燥」「高温・多湿」?

II-3) 心地よい温度と湿度は・・・

- 温度は「15～20℃未満」(42.8%)と「20～25℃未満」(41.1%)を回答した人が多い
- 湿度は「50～60%未満」(27.5%)、次に「60%以上」(19.6%)
- しかし、心地よい空気に重要とされる温度と湿度の組み合わせで見ると、「低温・乾燥」から「高温・多湿」の組み合わせを回答する傾向

温度は「15～20℃未満」(42.8%)と「20～25℃未満」(41.1%)を回答した人が多く、湿度は「50～60%未満」(27.5%)、次に「60%以上」(19.6%)が続く結果となりました。これは、実際に体感調査で快適とされる温度や湿度に近い回答となっています。

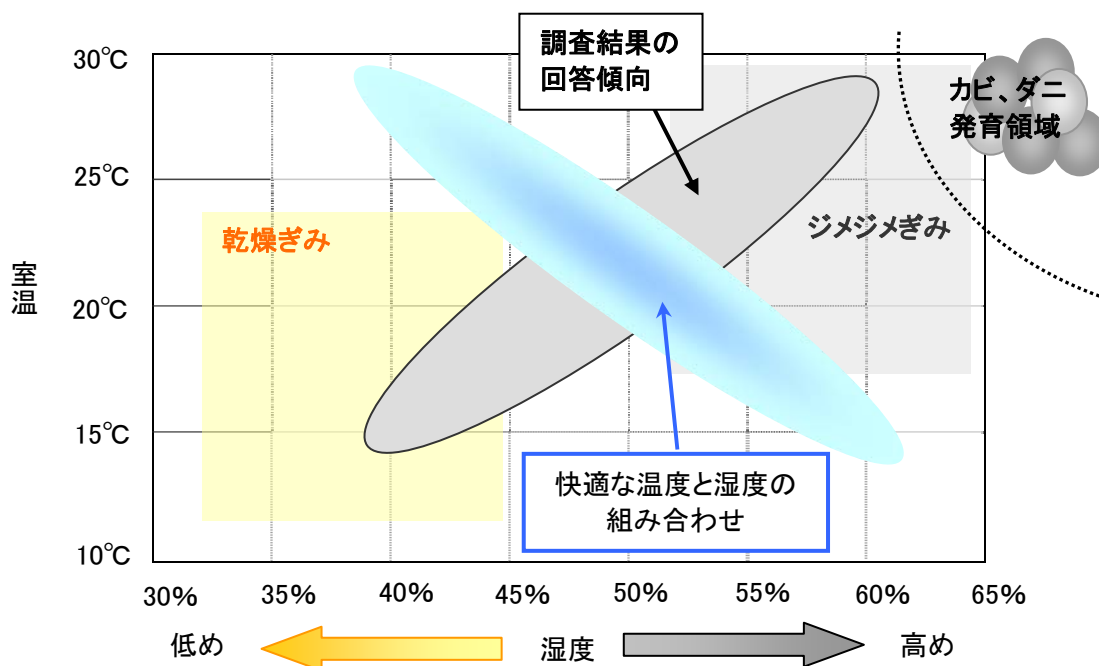
しかし、心地よい空気に重要とされる温度と湿度の組み合わせで見ると、「低温・乾燥」から「高温・多湿」の組み合わせを回答する傾向にあり、一般に快適とされる「低温・多湿」から「高温・少湿」の組み合わせとは全く逆の傾向となりました。そこで、この温度と湿度の組み合わせから、「高温・多湿」が気になる「梅雨の時期」の“心地よい空気”について考えてみました。

＜梅雨の時期に“心地よい空気”で快適に過ごすには・・・＞

一般に、“心地よい空気”は、温度が低くなるほど湿度が高く、温度が高くなるほど湿度が低い「低温・多湿」から「高温・少湿」の組み合わせが快適とされていることは、当社の調査でも実証されていますが(次ページの「快適な温度と湿度の組み合わせ」)、今回のアンケート調査から低温を回答した人、高温を回答した人のそれぞれの心地よいとした湿度を見てみると、全く逆の組み合わせとなる、「低温・乾燥」から「高温・多湿」が回答される傾向となりました。(以下「調査結果の回答傾向」)これは、**温度と湿度を組み合わせる考えがなく、さらに温度に対する理解と比較し、湿度への理解がまだまだ不足していることが原因と考えられます。**

特に梅雨の時期は、温度が比較的高く、湿度はじめじめの「高温・多湿」となり、カビやダニの温床にもなりやすい季節です。このような季節に快適に過ごすには、温度だけでなく、湿度についてもっと意識し、より良い温度と湿度の組み合わせを認識する必要があるといえます。

＜「快適な温度と湿度の組み合わせ」と調査回答傾向＞



※ 快適な温度と湿度の組み合わせは、ダイキン工業株式会社による調査データから算出した、理想的な温度と湿度の組み合わせの推奨ゾーンです。

今回の調査では、梅雨の時期を快適に過ごす工夫についても聞いてみたところ、除湿機やエアコンのドライ運転などを使う人が最も多く、晴れた日に布団干しをしたり、換気扇を回すなどをして湿気について気をつける人の他、“じっと我慢する”といった梅雨へのあきらめ派が次に続きました。また、面白い回答では“おしゃれをする・スポーツをする・外出する”など気分転換を図る人も多く、関西では“外出してうまいものを食べる”、“お酒を飲む”、東京は“スポーツで汗をかく”、“アロマ・ハーブ・お香の香りを楽しむ”、北陸は“外出を控える・汗をかかない”、“なるべく窓を開けない”など、梅雨対策に地域特性もみられました。

しかし、ただ単に湿気を減らすことを考えるのではなく、自分が快適と考える温度にはどの程度の湿度の組み合わせが必要かを考えることが梅雨を快適に過ごすコツであるといえます。

◆人が快適さを感じる「低温・多湿」「高温・低湿」と全く逆の組み合わせとなる、「低温・乾燥」から「高温・多湿」が回答される傾向。これは、温度と湿度を組み合わせで考えることがなく、さらに温度に対する理解と比較し、湿度への理解がまだまだ不足していることが原因と考えられる。

◆カビやダニの温床となりやすい「高温・多湿」の梅雨の時期こそ、湿度への理解が必要。

Ⅲ. 自分の町の空気はどんな空気だと感じるか

Ⅲ-1) 自分の町の空気感（印象）は、若い世代ほどネガティブに捉える。

Ⅲ-1) 自分の町の空気感（印象）は・・・

- “明るい”（73.7%）、次いで“乾いた”（70.0%）
- 年齢が高くなるほど肯定する率が高くなり、若い世代ほど「暗い」「退廃的」「冷たい」など、自分が住んでいる町に対してネガティブな印象

自分が住んでいる町の“空気”に対してどんな印象をもっているのか聞いてみたところ、“明るい”＜「明るい」+「やや明るい」の合計。以下同じ＞が最も多く（73.7%）、次に“乾いた”（70.0%）、以下“楽しい”（69.2%）“のんびりした”（68.7%）“健康的な”（68.6%）“温かい”（68.2%）が続きました。世代別にみると、ほとんどの項目で年齢が高いほど、自分の住んでいる町の“空気”について“明るい”“爽やかな”“楽しい”などの肯定的な印象をもっており、逆に、若い世代ほど“暗い”“退廃的”“冷たい”など自分の住んでいる町の空気に対して否定的な印象をもっていました。また、性別ではあらゆる項目で女性の方が肯定的な回答を選択した割合が高く、女性の方が自分の住んでいる町の空気を肯定的に捉えている結果となりました。

Ⅲ-2) 自分の町の空気を不快と感じる人は、東京では2人に1人。大阪は3人に1人、北海道はわずか5人に1人で、空気環境の面で東京在住者の潜在的な不満が浮き彫りに。

Ⅲ-2) 東京の空気感（印象）は・・・

- 自分の町の空気に対して最も肯定的な印象をもっている地域は「甲信越」。最も否定的な印象をもっている地域は「東京」
- 自分の町の空気を不快と感じる人は、東京では2人に1人。大阪は3人に1人、北海道はわずか5人に1人であり、空気環境の面で東京在住者の潜在的な不満が浮き彫りに。
- 東京以外の人から見ても、東京は「せかせか」して「退廃的(不健康)」で、「不快な」「うるさい(騒がしい)」空気感（印象）をもつ街

自分の町の空気に対して、“爽やかな”（90.4%）“明るい”（87.8%）などの肯定的な印象を最ももっている地域は「甲信越」で、“濁った”（63.7%）“不快な”（60.9%）などの否定的な印象を最ももっている地域は「東京」となりました。自分の町の空気を不快と感じる人は、東京に住んでいる人の2人に1人にのぼり、大阪では3人に1人、北海道ではわずか5人に1人であることに比べると、空気環境の面で東京在住者の潜在的な不満が浮き彫りとなりました。

そこで、東京以外に住んでいる人に、東京の“空気”についてどんな空気だと感じるかを聞いたところ、肯定的な印象でも“楽しい”（22.9%）“明るい”（22.3%）などの項目は比較的にかかったものの、その他の肯定的な印象をもつ項目はすべて1割以下にとどまりました。また次に、自分が住んでいる町の“空気”と東京の“空気”の比較を聞いてみたところ、肯定的な印象を持つ項目の差で見ると、最も差が大きかったのは“のんびりした”（差 66.9%）、“健康的な”（差 62.5%）、“爽やかな”（差 61.5%）“静かな”（差 60.4%）となり、いい換えれば、地方の人から見て、東京は「せかせか」して「退廃的(不健康)」で、「不快な(爽快感のない)」「うるさい(騒がしい)」といった空気感（印象）をもつ街と言えそうです。

- ◆ 将来が見えないからか、若い世代ほど“自分の町の空気”をネガティブに捉え、東京は「せかせか」して「退廃的」で「不快な」イメージに。

Ⅲ-3) 東京で最も空気のきれいな場所ベスト3は「奥多摩」「皇居」「八王子・高尾」。

Ⅲ-3) 東京で最も空気のきれいな場所ベスト3は・・・

- 「奥多摩」「皇居」「八王子・高尾」
- 「わからない」「東京にはない」という答えも多い

東京できれいな空気のある場所は、「奥多摩」(奥多摩・多摩地域・西多摩・檜原村付近・都民の森・秋川溪谷など)という回答が最も多く、次に「皇居」「八王子・高尾」などが続いています。しかし、「わからない・東京にはない」という回答も多く見られます。

23 区別でみると、「世田谷区」(駒沢・砧・等々力溪谷など)と「渋谷区」(代官山・代々木公園など)が上位にあげられています。

少しユニークな回答としては「空調の完備されたビルの中」「高層ビルの上層階」「東京タワーのてっぺん」「総理官邸」「一流料亭」などといった回答も見られます。

なお、「奥多摩」「世田谷」「渋谷」「空調の完備されたビルの中」などの回答は東京や南関東の人が多く、「東京タワーのてっぺん」「皇居」「明治神宮」「上野の森」「お台場」などの回答は東京以外の人の回答が多くなっています。

※ 本調査結果の詳細データもご用意しております。ご希望の方は、下記宛先までお問い合わせください。

～本資料に関するお問合せ～

◆ **ダイキン工業株式会社 広報部**

【本 社】 広報部長 芝 道雄 / 課長 片山 義文

〒530-8323 大阪府大阪市北区中崎西 2-4-12 梅田センタービル

TEL.06-6373-4348

FAX.06-6373-4330

【東京支社】 東京担当部長 井上 武郎 / 東京担当 山田 香織

〒163-0235 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

TEL.03-3344-8052

FAX.03-3344-8021

ダイキンホームページアドレス

<http://www.daikin.co.jp>

お問い合わせ総合窓口 eメールアドレス

koho.inf@daikin.co.jp

◆ **共同 PR 株式会社**

担当: 蓮間 崇道・上沼 貴義

〒104-8158 東京都中央区銀座 7-2-22 同和ビル

TEL.03-3571-5171

FAX.03-3574-9364